



## 冬から春にかけての感染症について



### 1. インフルエンザ (潜伏期間1～2日)

コロナ拡大の陰に隠れていたインフルエンザウイルスが再び動き始め、小児の感染者も増えてきています。インフルエンザウイルスは感染力が強く接触感染や空気感染で伝染します。突然の高熱、悪寒、関節痛、倦怠感などの全身症状が強く、咳・鼻汁などの気道症状も持続します。高熱により熱性けいれんを起こしやすく、インフルエンザ脳炎、脳症との鑑別が必要になります。当院でもインフルエンザ陽性となりけいれんで受診されたお子様については、経過観察のため入院をお勧めしています。比較的症状が落ち着いており、食事も摂取できて、自宅で安静に過ごせるのであれば入院する必要はありません。発症後早期に診断を受け、抗ウイルス薬を使用することで有熱期間の短縮が期待されます。発熱で病院にかかる際は、周辺の流行状況を確認のうえ、受診されることを推奨します。

### 2. 溶連菌感染症 (潜伏期間2～5日)

咽頭炎、扁桃炎を起こす細菌感染症で、冬から春にかけて、飛沫、経口感染します。高熱や激しい咽頭痛で発症し、24時間以内に細かい発疹が出現することがあります。溶連菌感染症は後に腎炎などを合併することがあり、早期に診断し確実に治療を受けることが必要です。処方された薬は決められた通りにきちんと内服しましょう。

### 3. 感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症）

ウイルス性の胃腸炎で大人から子供まで感染し、家族全員でかかってしまうことも多く見られます。症状は、下痢、嘔吐、発熱、腹痛ですが、個人差があります。発症までは1～3日ですが、下痢の期間は3～8日までとなっていること、また、症状が治まってもなお、便の中にはウイルスが残り、風に乗って舞いあがったものを、吸いこむことで家族内での感染拡大につながっていると思われます。トイレやおむつ交換後の手洗いは確実に行いましょう。



今年はRSウイルス感染症も流行っています。

このウイルスは新生児であっても感染します。  
保育園、幼稚園に通っているご兄弟がいるご家庭は要注意です。

ウイルス感染症ですので治療は対症療法となりますが、  
分泌物によって鼻が詰まり、苦しくてミルクが飲めないときや、  
高熱が何日もつづくようでしたら、受診しましょう。



長野赤十字病院 病後児保育室ゆりかごでは、病気や怪我の回復期にあるお子さんをお預かりしています。  
感染症の流行期などに「ゆりかごだより」として情報を発信してまいります。

長野赤十字病院  
病後児保育室 ゆりかご  
TEL 026-226-7753



ご利用についての詳細は長野赤十字病院ホームページをご覧ください。

QRコード または 「長野赤十字病院 ゆりかご」で検索